

- ①田端駅南口 10:30 集合→②不動坂  
→③幽霊坂→④与楽寺→⑤東覚寺→  
⑥田端八幡→⑦東台橋→⑧田端文士  
村記念館→⑨田端駅北口

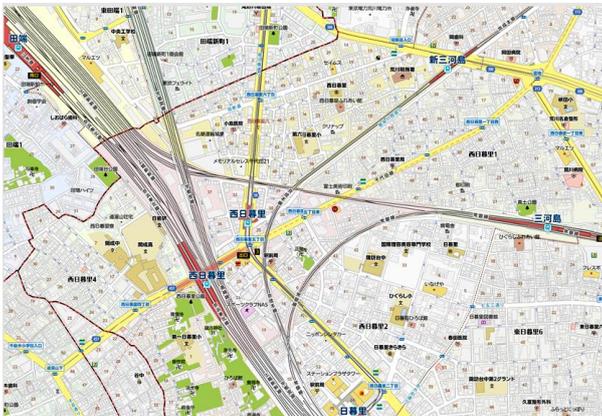
①田端駅南口

北口の賑わいとは対照的に駅員がいない無人改札駅で山手線の秘境駅とも言われている。



田端駅はかつての常磐線の起点駅。土浦方面から来た列車は三河島から直進して田端に行き、スイッチバックして上野に向かっていった。現在は三河島から大

きく曲がって日暮里、上野へと直接つながっている。【左図参照】元の線路は貨物専用として現存。1962年(昭和37年)5月、旧国鉄時代に三河島で田端方面から来た貨物列車と上野から来た国電の接触による大事故が発生している。



②不動坂

駅から武蔵野台地のへりまで上る坂道。新海誠監督のアニメ映画「天気の子」に登場し、ファンの聖地巡礼の場となっているそうだ。映画の中では「この台



映画のワンシーン

地の東側は200年前までは海だった」という会話もされているが、ラストシーンでは眼下一面水没状態となった景色が描かれている。

③「幽霊坂」は都内でもいくつか存在するが、その名の由来は鬱蒼と木が茂り昼なお暗いところや周辺に寺院や墓地などが並ぶところに存在する坂だったものが多い。また傾斜が急で危険な坂や、崖下はゴミ捨て場となったところもあって、子供たちが近づかないよう敢えて名付けられたものもある。ここの幽霊坂はかつて与楽寺境内の鬱蒼とした山中にあったものと想像される。

④与楽寺 正式名:宝珠山地蔵院与楽寺 別称:賊除地蔵

宗派:真言宗豊山派 本尊:地藏菩薩  
 創建年:伝・弘法大師の時代 開山:空海  
 札所等:江戸六阿弥陀 4番、御府内八十八ヶ所霊場 56番、豊島八十八ヶ所霊場 56番、上野王子駒込辺三十三ヶ所観音霊場 21番



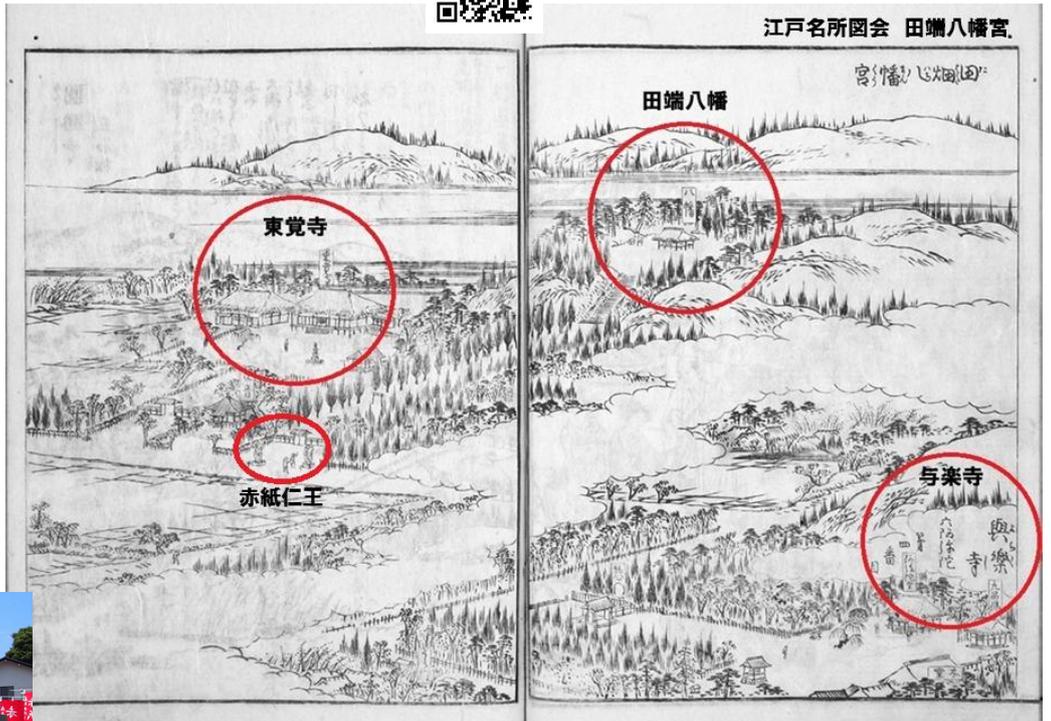
【阿弥陀堂】彼岸の時に御開帳される。左は与楽寺門前。正面奥に本堂、その左側に阿弥陀堂がある。門前左に弘法大師の銅像が立つ。



⑤東覚寺 白龍山寿命院東覚寺 <https://tabata-toukakuji.jp>



宗派:真言宗豊山派  
 本尊:不動明王  
 創建:室町中期、慶長年間  
 (1600年ごろ)現地に移転  
 札所:御府内八十八ヶ所霊  
 場第66番札所(弘法大師)  
 九品佛順礼霊場第2番(阿  
 弥陀如来)、両国三十三観  
 音霊場第29番松尾寺本尊  
 馬頭観音うつし  
 滝野川寺院巡り第2番  
 谷中七福神(福禄寿)



赤紙仁王(赤紙を張り付けて病気平癒を願う)像全体に赤紙が張られていて本体が見えない。江戸時代、田端八幡参道前に置かれた仁王像は明治時代になって神仏分離のため田端八幡の別当寺であった東覚寺の前に移動された。



谷中七福神  
東京で最古の七福神めぐり



東覚寺境内

⑥田端八幡神社 江戸名所図会に描かれているように、東覚寺の脇の長い参道の先、小高い丘の上にある。



「田端八幡神社」は、文治5年(1189)源頼朝が奥州征伐を終えて凱旋するときに鶴岡八幡宮を勧請して創建されと伝えられる。ここから北西500mほど先には「上田端八幡神社(別当寺は大龍寺)」があり、創建は同じで、上田端、下田端それぞれの村民の鎮守となっていた。

⑦東台橋 橋の上から田端駅北口方面を見る。橋の下は都道458号(田端駅前通り)で深い切通しとなっている。正面のガラスに景色が反射しているビルはJR東日本首都圏本部ビル。白いガードは新幹線が走り、その下の広い歩道には初代新幹線の団子鼻や車輪などが展示されている。



⑧田端文士村記念館 芥川龍之介や室生犀星ほか多くの著名な文士・芸術家が若いころ田端に住み切磋琢磨して後に名を成したとのこと。その記録を後世に残すためにこの記念館が開館。【ここまでくれば⑨田端駅はすぐ近く、お疲れさまでした。】

<https://kitabunka.jp/tabata/>

## Optionとして、田端から山手線で2駅、巣鴨に行く



田端で山手線は京浜東北線と分かれ左に大きく曲がって切り通しの間を進み武蔵野台地の中に入っていく。山手線唯一の踏切を通過して駒込、巣鴨に向かう。巣鴨で下車、真性寺の江戸六地蔵4番目に拝顔。続いて地蔵通りの名のゆかりとなるとげぬき地蔵尊を祀る高岩寺に行く。

### 真性寺 醫王山東光院真性寺



宗派:真言宗豊山派  
本尊:薬師如来  
創建:不詳  
札所等:御府内八十八箇所第33番、豊島八十八箇所第33番、江戸六地蔵第4番  
文化財:銅造地蔵菩薩坐像(東京都指定文化財)

江戸六地蔵は丈六の銅造地蔵菩薩坐像で江戸からの六街道添いに設置されて、江戸の守りとするとともに旅行く人たちの安全を見守った。真性寺の前は旧中山道。

丈六とは釈迦の背丈と言われているが、立った状態で1丈6尺(約4.8m)。座像のため実際は2.7m程度の大型鑄造仏である。中山法華経寺の大仏も丈六で同時代に同じ鑄造師によって製作されたものである。

### 幽霊坂

- ①田端与楽寺横
- ②神田淡路町
- ③富士見町
- ④目白台運動公園脇
- ⑤市ヶ谷柳町
- ⑥三田正覚院横
- ⑦品川

ゼームス通り脇

### 江戸六地蔵

- ①品川寺 東海道
- ②東禅寺 奥州街道
- ③太宗寺 甲州街道
- ④真性寺 中山道
- ⑤靈巖寺 水戸街道
- ⑥永代寺 千葉街道

六地蔵①～⑤は現存、⑥は明治期の廃仏毀釈で消滅。

お地蔵さまは6体揃って立つことがあるが、これは六道輪廻思想によるもの。死後の世界だけではなく、日常生活の中で「怒り」「欲望」「苦しみ」様々な場面でお地蔵さまは優しく見守ってくれる。

江戸六地蔵 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E5%85%AD%E5%9C%B0%E8%94%B5>



高岩寺 曹洞宗萬頂山高岩寺 <https://www.togenuki.jp/facilities.html>



本尊:とげぬき地蔵 本尊霊印  
創建:1596年(慶長元) 神田明神脇  
1891年(明治24) 現在地に移転

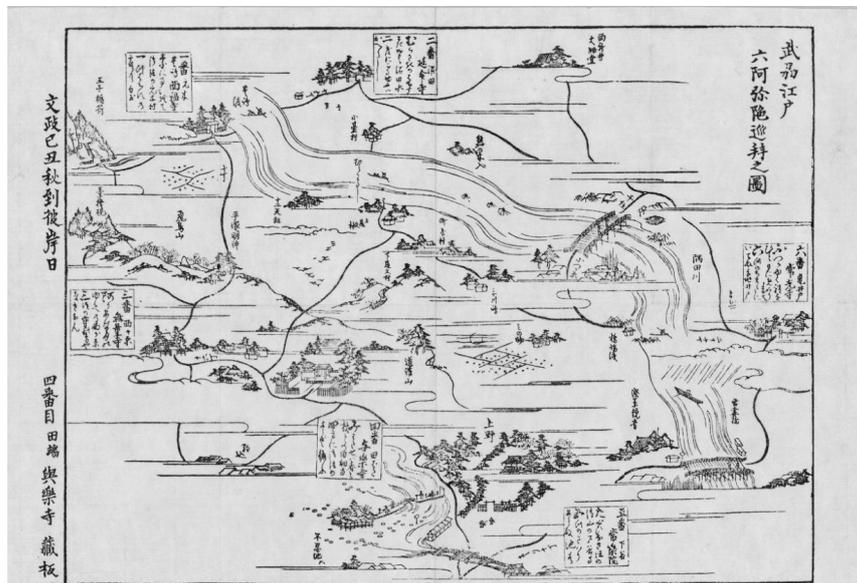


とげぬき地蔵の由緒 ビデオ  
<https://youtu.be/nciyDXFq03M>

とげぬき地蔵尊  
御影

東京 巣鴨

お御影5枚入



「六阿弥陀廻り」とは、春と秋のお彼岸の期間に、熊野から流れついた霊木で造られたという6体の阿弥陀像を祀った6ヶ所の寺院を巡り極楽浄土を願うことで、江戸の人々の行楽の一つだった。

六とは六字名号(南無阿弥陀仏)に因む数で、六体の阿弥陀像は行基により一本の木から彫られたものと伝えられる。また、同じ木の余った根本の部分から彫られた一体を木余りの如来もしくは根元阿弥陀、さらに残りの部分から彫られた観世音菩薩を木残りの観音または末木の観音と呼ぶ。六阿弥陀廻りは次を参照

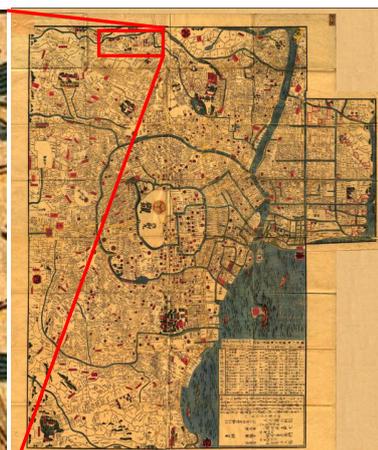
<https://kimama.life.coocan.jp/kimama2/edo-6amida.htm>

図引用: [https://adeac.jp/taito-lib/iif/mp071730-100070/2022\\_chi\\_002/mr](https://adeac.jp/taito-lib/iif/mp071730-100070/2022_chi_002/mr)



図引用 上左: [https://tesshow.jp/edo6amida\\_index.html](https://tesshow.jp/edo6amida_index.html)

上右: <https://don-quiotes.com/domestic8/tabata.html>



弘化年間江戸全図(1845-48)

【おまけ】庚申塚(庚申塔) 写真は巢鴨の庚申塚



人の中に三尸の虫(さんしのむし)が住んでいて、60日に一度めぐってくる庚申の日の夜、人が眠ると体から抜け出して天帝に宿主の悪口を伝えてその人の命を縮める、と信じられていた。そのため人はその日は眠らずに夜を過ごす風習があった。これを3年続けて合計18回成就した暁に建てた記念碑が庚申塚(庚申塔)。これは中国から伝わる道教に基づく教で、本来「人は正しく生きる!



る!」というものであろうが、この日の夜人々は講を組んで皆で集まり夜通し飲み食いして楽しんだという。(真面目に神仏に祈っていた人もいたかもしれないが…) 今年、直近の庚申の日は4月16日になる。